

# UHF シンセサイザー チューナーユニット

## 取扱説明書

### WRR-855S

お買い上げいただきありがとうございます。



**警告**

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、  
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の  
取り扱いかたを示してあります。**この取扱説明書をよくお読みの  
うえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、  
いつでも見られるところに必ず保管してください。

# 安全のために

ソニー製品は安全に十分に配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることもあり、危険です。

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

## 安全のための注意事項を守る

4、5 ページの注意事項をよくお読みください。

## 定期点検を実施する

5年に1度くらいは内部の点検について、お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご相談ください。

## 故障したら使用を中止する

お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご連絡ください。

## 万一、異常が起きたら

- 異常な音、におい、煙が出たら
- 落としたら



- ① 電源を切る。
- ② DC 電源ケーブル、およびすべての接続ケーブルを抜く。
- ③ お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口へ修理を依頼する。

炎が出たら



DC 電源ケーブルを抜き、消火する。

## 警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



**警告**

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながる場合があります。



**注意**

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

## 注意を促す記号



火災



感電



注意

## 行為を禁止する記号



禁止



分解禁止

## 行為を禁止する記号



指示

# 目次

⚠ 警告 .....	4
⚠ 注意 .....	4
概要 .....	6
各部の名称と働き .....	7
WRR-855S .....	7
ポータブルチューナーマウントアダプター BTA-801 (別売り)	9
準備 .....	10
アンテナを取り付ける .....	10
ソニー製カムコーダーに取り付ける .....	10
ポータブルチューナーマウントアダプターを使う .....	10
設定 .....	12
受信チャンネルを選択する .....	12
T OFF (トーンスケルチ機能解除) モードを選択 / 解除する ..	13
チャンネルプラン .....	14
チャンネルプラン設定時のご注意 .....	14
グループ名とチャンネル数 .....	16
グループ名とチャンネル名 .....	17
各種メッセージ .....	20
使用上のご注意 .....	21
使用・保管場所 .....	21
お手入れ .....	21
仕様 .....	22
保証書とアフターサービス .....	23
保証書 .....	23
アフターサービス .....	23

**警告**

火災 感電

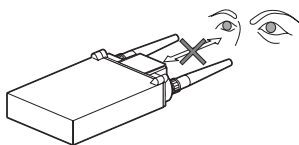
下記の注意を守らないと、  
**火災や感電により死亡や大けが**に  
つながることがあります。

**注意**

下記の注意を守らないと、  
**けが**をしたり周辺の物品に**損害**を  
与えることがあります。

**禁止****ボタン操作時にアンテナに目を近づけない**

本機上面のボタンを操作するとき目を近づけすぎると、アンテナで目を突き、けがにつながる可能性があります。

**禁止****油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所では設置・使用しない**

上記のような場所およびパワーアンプなど発熱体の近くで設置・使用すると、火災や感電の原因となることがあります。

**禁止****DC 電源ケーブル（ポータブルチューナーマウントアダプター BTA-801 に付属）を傷つけない**

DC 電源ケーブルを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- DC 電源ケーブルを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- DC 電源ケーブルを抜くときは、必ずコネクタを持って抜く。

万一、DC 電源ケーブルが傷んだら、ソニーの業務用商品相談窓口へ交換をご依頼ください。

**指示****指定の電圧および極性で使用する**

規定外の電圧および極性で使用すると、火災の原因となることがあります。

この取扱説明書に記されている電圧および極性で使ってください（9 ページ参照）。



### 指示

## 受信待機時や電源の ON/OFF 時には、接続した機器の入力を絞る

受信待機時や RF（高周波）入力レベルが小さくなったとき、また電源の ON/OFF 時には大きな雑音が発生し、接続した機器あるいはスピーカーなどに損害を与えることがあります。



### 分解禁止

## 外装を外さない、改造しない

外装を外したり、改造したりすると、感電やけがの原因となることがあります。内部の点検や修理は、お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご依頼ください。

# 概要

WRR-855S は、別売りのポータブルチューナーマウントアダプター BTA-801 などと組み合わせることで、A 型/B 型を受信帯域とした放送番組制作用 UHF シンセサイザーダイバーシティチューナーを構成できます。

多チャンネル同時運用の設定を容易にするため、PLL シンセサイザー技術を駆使し、液晶ディスプレイを搭載、ソニーチャンネルプランを採用しました。

A 型 特定ラジオマイクの陸上移動 (FPU-4CH 帯: 797 ~ 806 MHz)

B 型 特定小電力無線局 (806 ~ 810 MHz)

## PLL シンセサイザー方式

簡単なボタン操作で、A 型 71 チャンネルと B 型 30 チャンネルの合計 101 チャンネルの切り換えが可能です。

## 多チャンネル同時運用チャンネルプランを内蔵

ソニー独自の A 型帯域での 10 波同時運用チャンネルプラン、および A 型・B 型全帯域を利用した 12 波同時運用チャンネルプランなど、豊富なチャンネルプランがプログラムされており、多チャンネル同時運用でも混信が無く安定した受信が可能なチャンネル設定が容易に行なえます。

## 多彩な情報表示

受信チャンネルを表示する液晶ディスプレイ、RF (高周波) 入力レベル (緑・赤の 2 色表示)、オーディオレベル、送信機のバッテリー残量を表示する LED

など、各種の情報を上面パネルで集中表示します。

## スペースダイバーシティ方式

ドロップアウトの極めて少ない安定した受信が可能です。

## 小型・軽量

高密度実装技術により、小型・軽量化を実現。別売りのポータブルチューナーマウントアダプター BTA-801 と組み合わせることによって、ソニー製カムコーダーへの取り付けも容易です。

## 防滴構造

本機を別売りのポータブルチューナーマウントアダプター BTA-801 に完全に装着し、アンテナ 2 本を取り付けることにより、防滴構造 (JIS 防滴 II 型)<sup>1)</sup> になります。

1) JIS 防滴 II 型: 鉛直方向から 15 度の範囲で落ちてくる水滴によって有害な影響のないもの。

## スケルチ切り換え機能

パネル上のスイッチ操作で容易にスケルチの ON/OFF 切り換えが行えます。

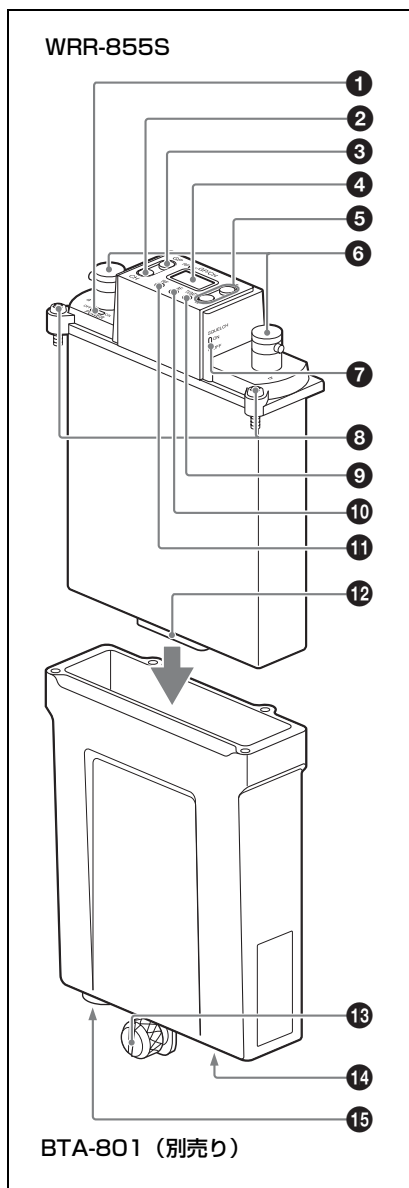
## トーンスケルチ回路

受信待機時に不要信号やノイズの出力を防ぐトーンスケルチ回路が内蔵されています。

## コンバンダー伝送方式

無線伝送系の外来雑音に強く、広域エリアでの運用が可能です。

# 各部の名称と働き



## WRR-855S

### ① POWER（電源）スイッチ

本機の電源を ON/OFF します。

### ② CH（チャンネル設定）ボタン

3 秒以上押しとチャンネル設定モードになり、チャンネル名が液晶ディスプレイに点滅表示されます。

◆ 詳しくは、「設定」（12 ページ）をご覧ください。

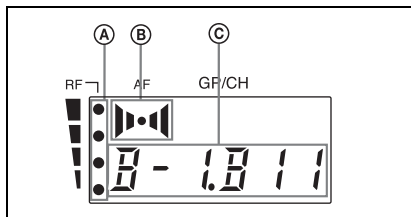
### ③ GP（グループ設定）ボタン

3 秒以上押しとグループ設定モードになり、グループ名が液晶ディスプレイに点滅表示されます。

◆ 詳しくは、「設定」（12 ページ）をご覧ください。

### ④ 液晶ディスプレイ

電源を ON にすると「HELLO」と表示された後、通常の表示モードに入ります。



### ⑤ RF（高周波入力）表示

高周波入力レベルを表示します。入力レベルにより点灯するドット（●）の数が変わります。

4 ドットが点灯：入力レベルは 30 dB  $\mu$  以上

3 ドットが点灯：入力レベルは 25 dB  $\mu$  ~ 30dB  $\mu$

**2 ドットが点灯**：入力レベルは 20 dB $\mu$  ~ 25 dB $\mu$

**1 ドットが点灯**：入力レベルは 10dB $\mu$  ~ 20 dB $\mu$

**点灯なし**：入力レベルは 10 dB $\mu$  以下

### Ⓑ AF (音声出力) 表示

基準レベル以上の音声信号が出力されると表示されます。

### Ⓒ GP (グループ) /CH (チャンネル) 表示

受信チャンネルのグループとチャンネルを表示します。

◆ 詳しくは、「設定」(12 ページ)をご覧ください。

**5 + (+選択) / - (-選択) ボタン**  
グループおよび受信チャンネルを選択します。

◆ 詳しくは、「設定」(12 ページ)をご覧ください。

### 6 アンテナ a/b 端子

付属の(短い)ヘリカルアンテナ2本、または(長い)ホイップアンテナ2本を接続します。

### 7 SQUELCH (スケルチ) スイッチ

ON に設定すると、受信待機時の不要信号やノイズを除去することができます。通常は ON に設定しておきます。妨害電波や外来雑音を探す場合などに、OFF にします。

#### で注意

• 本機が受信待機中あるいは RF 入力レベルが低い状態で受信中に SQUELCH

スイッチを OFF にすると、ノイズによって接続機器やスピーカーを破損することがあります。このスイッチを操作する場合は、必ず接続機器の音量を絞ってから行ってください。

• 本機を 0℃ 以下の環境で使用すると、受信信号に途切れが生じることがあります。その場合は SQUELCH スイッチを OFF にしてください。

### 8 取り付けねじ (4 か所)

BTA-801 に取り付けるとき使用します。

◆ 詳しくは、「ポータブルチューナーマウントアダプターを使う」(10 ページ)をご覧ください。

### 9 TX BATT (送信機の電池) インジケーター

送信機(ソニーの WRT シリーズなど)バッテリーアラーム機能付きの送信機やワイヤレスマイクロホン)の電池の残量を表示します。送信機の電池がなくなる約 1 時間前に点滅を始めます。

### 10 AF (オーディオ) インジケーター

基準レベル以上のオーディオ信号が出力されると点灯します。

### 11 RF (高周波 入力レベル) インジケーター

高周波信号の入力レベルを表示します。

**緑色で点灯**：入力レベルは 25 dB $\mu$  以上

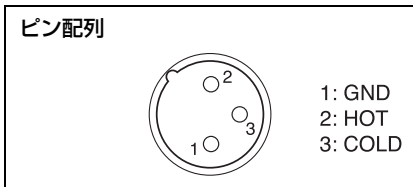
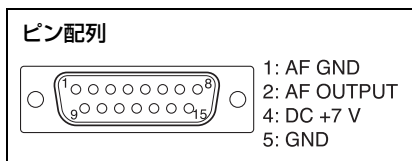
**赤色で点灯**：入力レベルは 10 dB $\mu$  ~ 25 dB $\mu$

**消灯**：入力レベルは 10 dB $\mu$  以下

### 12 アクセサリー端子



ポータブルチューナーマウントアダプター BTA-801 との信号と電源の接続に使用します。



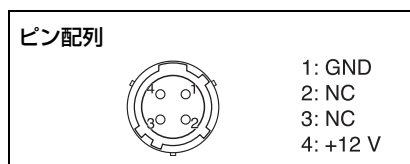
**ご注意**

マイクロホン用ファントム電源の供給機能を持ったミキサーへ接続する場合、なるべくファントム電源は OFF にして使用してください。

## ポータブルチューナーマウントアダプター BTA-801 (別売り)

### 13 DC 12V IN (電源入力) 端子

カムコーダーなどの外部電源 (DC 10 ~ 17 V) を接続します。



**警告**

電源電圧と極性には充分ご注意ください。

### 14 カムコーダー取り付けつまみ

カムコーダーに装着するとき使用します。

◆ 詳しくは、「ソニー製カムコーダーに取り付ける」(10 ページ) をご覧ください。

### 15 OUTPUT (出力) 端子 (XLR 3 ピン (凸))

オーディオ信号を出力します。カムコーダーやミキサー、テープレコーダーなどのマイクロホン入力端子に接続します。

## 準備

### アンテナを取り付ける

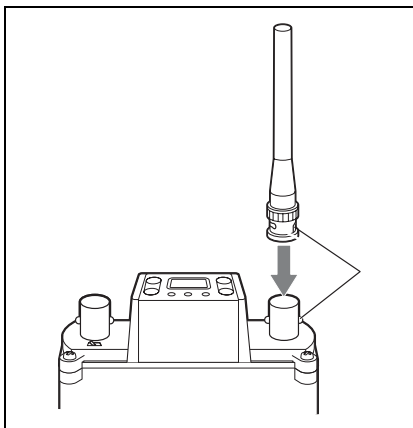
アンテナ a/b 端子に付属のアンテナを取り付けます。より高い機動性を要する用途には、(短い) ヘリカルアンテナが有効です。

#### ご注意

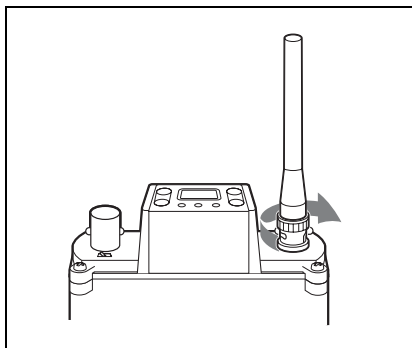
(短い) ヘリカルアンテナは、(長い) ホイップアンテナに比べて受信効率が若干低下します。

ここではホイップアンテナのイラストを使って説明していますが、ヘリカルアンテナも同様の方法で取り付けられます。

- 1 アンテナの溝とアンテナ端子の突起を合わせて差し込む。



- 2 アンテナを回してロックする。



### ソニー製カムコーダーに取り付ける

HDW シリーズ、DVW シリーズ、MSW シリーズ、PDW シリーズのカムコーダーには、ワイヤレスチューナーユニットを装着するためのスロットが装備されています。このスロットに WRR-855S を取り付けて使用できます。

- ◆ 取り付けかたについて詳しくは、ソニー製カムコーダーに付属のオペレーションマニュアルをご覧ください。

### ポータブルチューナーマウントアダプターを使う

ここでは別売りのポータブルチューナーマウントアダプター BTA-801 を例に説明します。

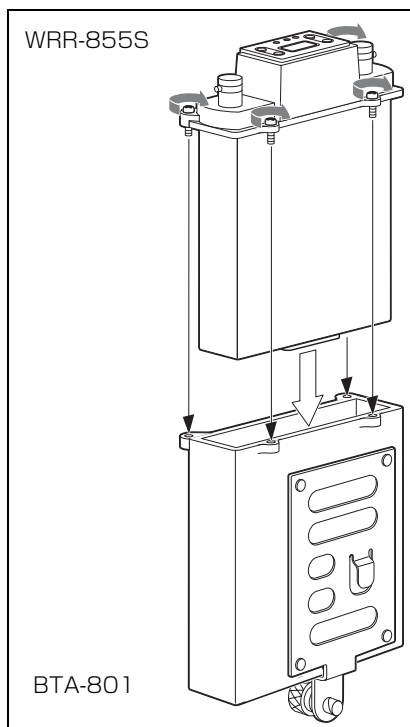
WRR-855S を BTA-801 に完全に装着してアンテナ 2 本を取り付けると、防滴構造になります。

## 取り付けかた

### ご注意

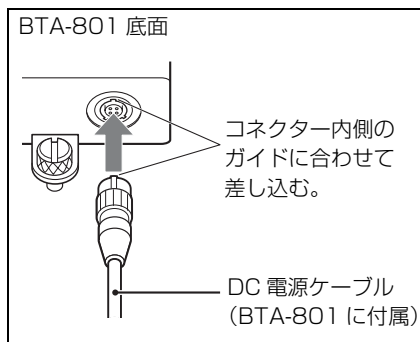
装着の前に、WRR-855S と BTA-801 との接合面にごみや異物がないことを確認してください。

- 1 WRR-855S の向きを確認して BTA-801 に挿入する。
- 2 アクセサリー端子が完全に接合し、カチッと音がするまで差し込む。
- 3 対角の取り付けねじ（4 か所）を交互に少しずつ締めて仮止めし、最後にそれぞれを固く締める。



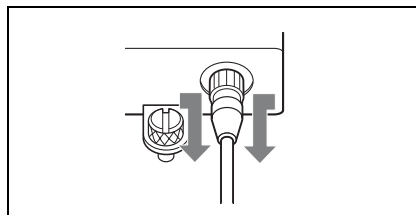
## 電源ケーブルの接続

BTA-801 に付属の DC 電源ケーブルを使って、BTA-801 の DC 12 V IN 端子とカムコーダーの DC OUT 端子を接続します。



### 電源ケーブルを外すには

コネクターの金属部分を下図の矢印方向に引き、そのまま引き抜きます。



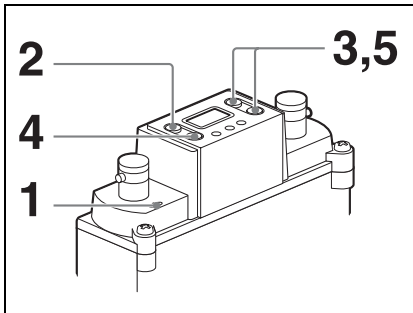
# 設定

## 受信チャンネルを選択する

### ご注意

混信や雑音を防ぐため、次の点にご注意ください。

- 同じチャンネルに設定したマイクロホンやトランスミッターを同時に2本(台)以上使用しないでください。
- 本機を同時に2台以上使用する場合は、必ず同一グループの互いに異なるチャンネルに設定してください。
- 送信機と受信アンテナは互いに3m以上離して使うことをお勧めします。



**1** POWER スイッチを ON にする。

ディスプレイに「HELLO」と表示された後、前回電源を OFF にしたときの状態が表示されます。

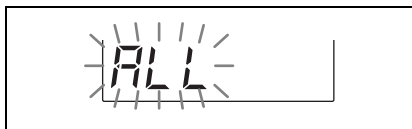
### ご注意

電源を ON/OFF するとノイズが発生しますので、接続した機器の入力

を絞ってから POWER スイッチを操作してください。

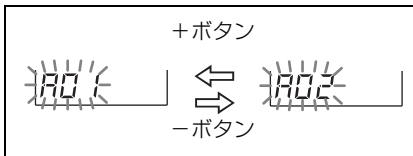
**2** GP ボタンを3秒以上押したままにする。

グループ選択モードになり、グループ名表示が点滅します。



**3** + または - ボタンを押してグループを選択する。

+ ボタンを押すと、「チャンネルプラン設定時のご注意」(14 ページ)の表の順方向にグループが切り換わり、- ボタンを押すと逆方向に切り換わります。(AB9 グループで+ ボタンを押すと ALL に戻り、ALL で- ボタンを押すと AB9 グループに切り換わります。)



5 秒間どのボタンも押さないと、自動的にグループ選択モードが解除され、表示されているグループ内で周波数の1番低いチャンネルが設定されます。ただし、ALL を選択したときは、前に ALL で設定したチャンネルが表示されます。

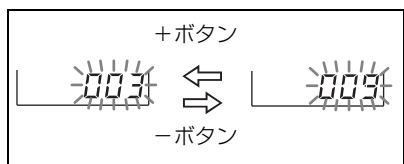
**4** 希望のグループが表示されたら、CH ボタンを押す。

チャンネル選択モードになり、チャンネル表示が点滅します。



**5** +または-ボタンを押してチャンネルを選択する。

+ボタンを押すと、「グループ名とチャンネル名」(17ページ)の表の順方向にチャンネルが切り換わり、-ボタンを押すと逆方向に切り換わります。



グループ内の最後のチャンネルで+ボタンを押すと最初のチャンネルに戻り、最初のチャンネルで-ボタンを押すと最後のチャンネルに切り換わります。

**6** 希望のチャンネルが表示されたら、5秒間どのボタンも押さずに放置する。

チャンネル表示の点滅が止まると、選択したグループとチャンネルが記憶されます。

### 妨害波チェック機能について

ワイヤレスマイクロホンを使用する前に、妨害波チェック機能を用いて妨害電波などの確認をすることができます。

妨害電波をチェックするには、チャンネル選択モード(チャンネル表示が点滅)

時に、+ボタンと-ボタンを同時に押ししてください。設定されているグループ内の受信チャンネルが自動的に順次切り換わります。(この状態をスキャンと呼びます。)

### ご注意

- 本機の SQUELCH スイッチが ON の状態で T OFF モード(14 ページ参照)に設定されていない場合には、スキャン中に受信した電波にトーン信号(32.768 kHz)が確認されると、スキャンは停止しその時点のチャンネルに設定されます。それに対し、トーン信号を含まない妨害波を受信した場合、スキャンは停止しません。(AB7~9 グループの A 型チャンネルはトーンスケルチが機能していません。トーン信号の有無にかかわらず、妨害電波を受信するとスキャンは停止します。)その場合は、RF インジケータまたは液晶ディスプレイの RF 表示で妨害波を確認してください。
- スキャンはグループ内のチャンネルを2巡すると自動的に解除されます。スキャン中にスキャンを解除するには、任意の操作ボタンを押してください。
- 非常に強い電波がある場合、実際の周波数と異なる場所でスキャンが停止することがあります。

## T OFF (トーンスケルチ機能解除) モードを選択 / 解除する

WRR-855S には、次のようなスケルチ機能があります。

### (1)RF (高周波) スケルチ

RF (高周波) 入力レベルが設定した RF スケルチレベル以下になると、オーディオ出力がミュートイングされます。

### (2) トーンスケルチ

規定のトーン信号が含まれている電波を受信しない限り、オーディオ出力がミュートイングされます。

### (3) ノイズスケルチ

ノイズが一定レベル以上になると、オーディオ出力がミュートイングされます。

(2) のトーンスケルチは、T OFF モードを選択することによって必要に応じて OFF にすることができます。T OFF モードは、トーン信号のない送信機を使用する場合などに使います。

### T OFF モードを選択するには

GP ボタンと-ボタンを押しながら電源を ON にし、「HELLO」と表示されたらボタンを離します。T OFF モードになり、「T OFF」と表示されてから通常が表示に切り換わります。

T OFF モードは電源を切っても保持されます。

### T OFF モードを解除するには

T OFF モードを解除して通常の状態に復帰させるときは、GP ボタンと+ボタンを押しながら電源を入れ、「HELLO」と表示されたらボタンを離します。「T ON」と表示され、通常の状態に復帰します。

---

## チャンネルプラン

WRR-855S は、A 型帯域 71 チャンネル、B 型帯域 30 チャンネルの合計 101 チャンネル（「チャンネルプラン設定時のご注意」参照）のうち、任意に選択した 1 チャンネルを受信します。

ワイヤレスマイクロホンやトランスミッターを同時に複数使用する場合、混信を起こさないチャンネルの組み合わせが豊富に用意されています。はじめにグループを指定し、プログラムされているチャンネルを設定することにより、多チャンネル同時運用が容易

に行えます。ワイヤレスマイクロホンまたはトランスミッターの送信チャンネルを、本機の受信チャンネルと同じチャンネルに設定してご使用ください。

---

### チャンネルプラン設定時のご注意

- グループ ALL は、全チャンネルを連続して切り換えて受信チャンネルを設定するときに使用します。多チャンネル使用の場合、相互混信によるノイズが発生する場合がありますため ALL 以外でのグループ設定をお勧めします。
- 同系統のグループ（例：A01～A04）の組み合わせに限り、複数のグループを近接して使用することができます。この場合、グループ間の距離を 30 m<sup>1)</sup> 以上離してください。
- 2 つ以上のシステムで同一グループを使用する場合は、仕切りや障害物がなく見通せる広い空間では、システム間の距離を 100 m<sup>1)</sup> 以上離してください。

1) グループ間あるいはシステム間の距離は、使用環境・条件によって異なります。

- 本機は、コンパクターシステム専用の受信機です。リニア方式のみの送信機（WRT-67M など）と組み合わせて使用することはできません。

### 注意

AB7、AB8、AB9 グループの A 型チャンネルはトーンスケルチ機能に対応していません。トーンスケルチに対応したワイヤレスマイクロホンやトランスミッターを使用する場合でも、電源 ON/OFF 時や受信待機時には本機のオーディオ出力に雑音が発生し、接続した機器あるいはスピーカーなどに損害を与えることがあります。本機に接続した機器の入力を絞っておいてください。

## グループ名とチャンネル数

グループ名	A型チャンネル数	B型チャンネル数	合計チャンネル数	グループ概要
ALL	71	30	101	A 型、B 型帯の全チャンネル
A01	10	0	10	A 型チャンネルの同時運用グループ
A02	10	0	10	
A03	10	0	10	
A04	10	0	10	
AB1	9	2	11	A 型チャンネル優先の同時運用グループ (最大 12 チャンネル)
AB2	9	2	11	
AB3	9	2	11	
AB4	9	2	11	
AB5	7	5	12	
AB6	7	5	12	
B-1	0	6	6	B 型標準チャンネルプランの同時運用グループ
B-2	0	6	6	
B-3	0	6	6	
B-4	0	6	6	
B-5	0	5	5	
B-6	0	1	1	
B-7	0	7	7	B 型チャンネルの同時運用グループ (最大 7 チャンネル)
B-8	0	7	7	
BA1	4	6	10	B 型チャンネル優先の同時運用グループ
BA2	4	6	10	
BA3	4	6	10	
BA4	4	6	10	
BA5	5	5	10	
BA6	9	1	10	
AB7	7	2	9	WRT-28M チャンネル専用の同時運用グループ
AB8	7	2	9	
AB9	6	2	8	

◆ それぞれのグループの受信チャンネル名については、「グループ名とチャンネル名」をご覧ください。



## グループ名とチャンネル名

グループ名	ALL								
チャンネル名	A001	A013	A025	A037	A049	A061	B-11	B-31	B-51
	A002	A014	A026	A038	A050	A062	B-12	B-32	B-52
	A003	A015	A027	A039	A051	A063	B-13	B-33	B-53
	A004	A016	A028	A040	A052	A064	B-14	B-34	B-54
	A005	A017	A029	A041	A053	A065	B-15	B-35	B-55
	A006	A018	A030	A042	A054	A066	B-16	B-36	B-61
	A007	A019	A031	A043	A055	A067	B-21	B-41	
	A008	A020	A032	A044	A056	A068	B-22	B-42	
	A009	A021	A033	A045	A057	A069	B-23	B-43	
	A010	A022	A034	A046	A058	A070	B-24	B-44	
	A011	A023	A035	A047	A059	A071	B-25	B-45	
	A012	A024	A036	A048	A060		B-26	B-46	

グループ名	A01	A02	A03	A04
チャンネル名	A001	A002	A005	A006
	A003	A004	A013	A012
	A009	A008	A015	A014
	A021	A019	A027	A024
	A037	A028	A032	A029
	A042	A035	A038	A043
	A051	A047	A053	A054
	A061	A057	A062	A063
	A064	A060	A066	A067
	A068	A065	A069	A070

グループ名	AB1	AB2	AB3	AB4	AB5	AB6
チャンネル名	A001	A002	A005	A006	A003	A004
	A003	A004	A013	A008	A007	A008
	A009	A011	A015	A017	A017	A018
	A016	A014	A027	A022	A024	A025
	A021	A019	A031	A025	A033	A034
	A037	A030	A034	A045	A039	A040
	A046	A043	A054	A049	A057	A058
	A056	A057	A059	A055	B-22	B-31
	A060	A061	A065	A067	B-43	B-52
	B-24	B-53	B-52	B-23	B-15	B-44
	B-36	B-44	B-46	B-55	B-45	B-16
					B-55	B-46

グループ名	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8
チャンネル名	B-11	B-21	B-31	B-41	B-51	B-61	B-11	B-21
	B-12	B-22	B-32	B-42	B-52		B-12	B-31
	B-13	B-23	B-33	B-43	B-53	B-33	B-13	
	B-14	B-24	B-34	B-44	B-54	B-52	B-14	
	B-15	B-25	B-35	B-45	B-55	B-54	B-25	
	B-16	B-26	B-36	B-46		B-36	B-16	
						B-55	B-46	

グループ名	BA1	BA2	BA3	BA4	BA5	BA6
チャンネル名	A003	A005	A015	A002	A009	A006
	A031	A022	A027	A024	A020	A008
	A040	A045	A050	A053	A048	A011
	A057	A054	A059	A061	A056	A018
	B-11	B-21	B-31	B-41	A070	A032
	B-12	B-22	B-32	B-42	B-51	A036
	B-13	B-23	B-33	B-43	B-52	A049
	B-14	B-24	B-34	B-44	B-53	A055
	B-15	B-25	B-35	B-45	B-54	A071
	B-16	B-26	B-36	B-46	B-55	B-61

グループ名	AB7	AB8	AB9
チャンネル名	A-11	A-21	A-31
	A-12	A-22	A-32
	A-13	A-23	A-33
	A-14	A-24	A-34
	A-15	A-25	A-35
	A-16	A-26	A-36
	A-17	A-27	B-54
	B-61	B-42	B-45
	B-35	B-26	

# 各種メッセージ

液晶ディスプレイには、通常の表示の他に次のようなメッセージが表示されます。

メッセージ	内容	対応
Err 01	バックアップメモリーデータにエラーが発生しました。	お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご相談ください。
Err 02	PLL シンセサイザー回路に異常があります。	
Err 03	電源電圧が許容値を超えています。	
NOTONE	トーン信号がないか、または 32.768 kHz 以外のトーン信号の電波を受信したため、オーディオ信号出力がミュートイングされています。	ご使用のトランスミッターが WRT-28M の場合、AB7、AB8、または AB9 グループを選択してください。それ以外のグループで使用する場合は、本機を T OFF モード（14 ページ）に設定してください。
T OFF <sup>1)</sup>	T OFF（トーンスケルチ機能解除）モードに設定されています。	詳しくは、「T OFF（トーンスケルチ機能解除）モードを選択/解除する」（13 ページ）をご覧ください。

1) このメッセージは、電源投入時に「HELLO」に続いて表示され、その後通常の表示モードになります。

# 使用上のご注意

## 使用・保管場所

- 本機は周囲温度0℃～50℃の範囲で動作します。
- 本機を電力機器（回転機、変圧器、調光器等）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信アンテナの位置やワイヤレスマイクロホンの使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置でご使用ください。
- 本機を騒音の多い場所や振動の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生（マイクロホニック）の原因となり、規定のS/Nを満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには、次のようなものがありますので、十分に注意してください。
  - 回転機、変圧器などの付近
  - 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
  - PA（Public Address）システムのスピーカー付近
  - スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をぶつけたり、たたいたり、物を落としたりした場合対策としては、影響を受ける条件からできるだけ離したり、緩衝材を敷くなどの処理をしてください。

## お手入れ

- 水分やほこりの多い所、活性ガスにさらされる所で使用したあとは、早めにコネクター部や本機表面のお手入れを行ってください。お手入れを怠ったり、このような場所で長時間使用したりすると、機器の寿命を縮めるおそれがありますので、ご注意ください。
- 表面やコネクター部の汚れは、乾いた柔らかい布でふきとってください。シンナーやベンジンなどの薬品類は、表面の仕上げをいためますので使わないでください。

# 仕様

## チューナー部

電波型式	周波数変調 110KF3E
回路方式	ダブルスーパーヘテロ ダイン方式
受信周波数	797 ~ 806 MHz 帯 71 チャンネル、806 ~ 810 MHz 帯 30 チャンネル、合計 101 チャンネル の うち 1 チャンネル
局部発振	第 1 局発： 水晶制御 PLL シンセサイ ザー 第 2 局発： 水晶制御 PLL シンセサイ ザー
基準周波数偏移	± 5.0 kHz
2 信号選択度	60 dB 以上 (± 250kHz 離調時)
スプリアス妨害比	70 dB 以上
イメージ妨害比	60 dB 以上
RF スケルチレベル	10 dB $\mu$ /OFF
アンテナ端子	BNC-R (2)、50 $\Omega$
周波数特性	50 ~ 15,000 Hz ± 3.0dB
ディエンファシス	50 $\mu$ s
信号対雑音比 (周波数偏 ± 5.0kHz、変 調周波数 1kHz 時)	30 dB 以上、10 dB $\mu$ 入力時 (A-weighted)
	60 dB 以上、60 dB $\mu$ 入力時 (A-weighted)

ひずみ率 1.0 % 以下 (変調周波  
数 1 kHz、周波数  
偏移 ± 40 kHz 時)

トーン信号周波数	32.768 kHz
出力レベル	- 40 dBu (0 dBu = 0.775 Vrms、変調 周波数 1 kHz、周 波数偏移 ± 5.0 kHz 時) 0 dB $\mu$ = 1 $\mu$ V
出力インピーダンス	100 $\Omega$ 、不平衡型
出力端子	D-sub コネクター (15 ピン) (1)

## 電源部・その他

電源電圧	DC 7 V (BTA-801 使用)
許容動作電圧	DC 6.5 ~ 9.0 V
消費電流	200 mA 以下 (DC 7 V 時)
許容動作温度	0 $^{\circ}$ C ~ + 50 $^{\circ}$ C
許容保存温度	- 20 $^{\circ}$ C ~ + 60 $^{\circ}$ C
外形寸法	88 × 118.8 × 31.3 mm (幅 / 高さ / 奥行き)
質量	約 280 g (付属アンテ ナ取り付け時)
付属品	ヘリカルアンテナ (2) ホイップアンテナ (2) 保証書 (1) 取扱説明書 (1)

## 別売アクセサリ

ポータブルチューナーマウントアダプ  
ター BTA-801

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

---

## 保証書とアフターサービス

---

### 保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定の事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

---

### アフターサービス

#### 調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

#### それでも具合が悪いときは

お買い上げ店、または添付の「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーのサービス窓口にご相談ください。

#### 保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

#### 保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お近くのソニーの営業所にお問い合わせください。

お問い合わせは

**「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ**

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>

Printed in Korea